
ドラえもんのび太のBIOHAZAD 1st seson

デスサイズ・0

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもののび太のBIOHAZARD 1st season

【Nコード】

N1080R

【作者名】

デスサイズ・0

【あらすじ】

むちゃくちゃで強引、しかもパクリばかり、作者の願望、欲望丸出しな所もあるノビハザ小説。駄文ですが宜しくお願いします。

プロローグ（前書き）

プロローグです

プロローグ

2015年 7月24日 僕たちはドラえもんはどこかの無人島に連れて行ってもらった。 4日後僕たちは家に帰ってきた。・・・しかし・・・まっていたのは・・・悪夢だった・・・。
グイン・ガチャ、突然のび太の部屋にピンクのドアが現れ、そこから4人の少年少女、そして青だん・・・もとい青いのが出てきた。このドアは”どこでもドア” 未来の道具だ。

のび太(以下の) 「楽しかったよドラえもん。 ありがとう。」

ドラえもん(以下ド) 「いやいや、お安い御用だよ。」

スネオ(以下ス) 「さて、帰ってきたんだし、家族に顔を出してこよう」

ジャイアン (以下ジ) 「じゃあ俺はその後スネオの家についてゲームでもさせもらうか。」

ス 「またかい・・・まあいいか・・・。」

静香 (以下し) 「私はお風呂にはいりたいなあ・・・。」

ジ 「15分46秒後、スネオの家に行くからな。」 ? 随分細けえな

ス 「はいはい... 了解しましたよ・・・。」

の、ド 「じゃあね。」

ジ 「オウ! じゃあな!」

の 「じゃあ僕らもママに会いに行くでしょう。」

ド 「そうしよう!」

彼らは知らなかった

... いや... 知るよしもなかった...

まさか此処が地獄の入口だとは...

ブローグ（後書き）

不定期で更新して行きますが宜しく願います。
？

C a p t e r 1 1 P a r t 1 (前書き)

第一話です？

Chapter 1 Part 1

の、ド「ママ！ただいま！」

のび太が話しかけるがママはうずくまり向こうを向いて何も答えない。

の「…ママ？」

グシャグシャと妙な音が聞こえる

ド「のび太君…なんだかママの様子がへ…」
「ゴトッ」「え…」
そこにあつたのは

首と胴体を切り離され頭の半分が食べられたようになったパパの死体

そして

肌の色や目がおかしな事になり血まみれのママの姿だった…

[illegible]

ママは奇声をあげながら襲いかかろうとしてくる。

「ちょ……ドラえもん？助けて？」

ド「こ、こーゆー時は…シヨックガンだ？食らえ！」バシユン

ドラえもんがママを直撃する

「あああゝ」

ド「あまりきいていない…!？」

「あああゝ」

ド「クソッどうすれば…のび太君！その包丁でママを殺るんだ？」

の「ええええええ？む、無理だよ！」

ド「いいから早く？殺るんだ？死にたいのか？」

そういつてドラえもんはママにボディーブローをかます。…自分で
書いといてなんだがドラえもんはボディーブロー出来るのかな…あ
の身長で…？まあいいや…

の「ママ…ゴメン…！」のび太は包丁を取りママを後ろから何度も刺した（50回位）？多いな？

の、ド「ハア……ハア……ハア……」

の「どうしてこんな事に……」

ド「！！の、のび太君…この死体…どう見ても死後2日はたつて
るよ…肉が腐り始めてるし…」

「の、一体どういうことなんだ……！死体が動いていたってのか！？」

ド「どうだろう…わからないよ…」（この症状…“アレ”としか考えられない…だけどアレのデータは全て持ち出して抹消したはず…）
の「とにかく逃げようよドラえもん？」

「うん」

のび太はドアを開けた、すると……

「ギヤアアアアアアアアアア?」

「ああゝ」

「あううううう」

「キヤアアアア？」

「あ…あ…ウワアアアアアアアアアアアアアアア？」

街中が火事になり、ママのようになった人々とそれに食べられている人々の姿だった…

の、ド「shit？」ガチャ？

の「オイオイオイオイオイオイ？どーゆー事だよ？」

ド「仕方ない タケコプター？…アレ？動かない…」

の「はあああああ？ふざけんじゃねえよてめえ？」

ド「バカな？おとといにメンテナンスにだして帰ってきたところだぞ？」

ドンドンドンドン？

ド「やばくね…？」

の「仕方ない…あれを出すか…」

のび太はパパの部屋へ向かった

の「確かこのへんに…あったあった、オリヤア？」

のび太は畳を一枚剥がしたすると日本刀が2つ置いてあった。

ド「…のび太…これは…」の「ああ、パパが趣味で集めたんだろうよ、多分。この前刃を研いでいたからな使えると思うよ。」

そう言つて片方の刀をドラえもんに渡した

の「さて、次だ。」今度は自室の畳を三枚剥がした、するといくつかの銃と弾があった。

ド「ちょ…お前…どこでこんな物を…」

の「楽。でエアガンセットを買ったら本物だった。」

ちなみに置いてあった銃は

Mk23 socom pistol

S,A,A,

フルサードP38

ベレッタM92F×3

デザートイーグル

だ

の「俺はソーコムとS / A / A / だ」

ド「ならば俺はワルサーP38だ」

の「あまりはリュックにでもいれて持って行くか。」ド「てゆーかこの状況はみんなが危ないな。助けに行くしかないな」

の「ああ。」

ド「どうやって行く？弾は沢山あるが…」

の「そうだな…正面突破はきついな…ん？なんか紙が…」

「最初のほうはお前ら全員の弾は無限にしといてやるぜ？by作者」
の「おお！これはありがたい！」

ド「で、どうやって行く？」

の「屋根を伝っていけばいいんじゃない？」

ド「そうするか」

の「よしまずは静香の家が一番近いから行くか！」ガチャン、チャキ
ド「ああ！行くぜ！」ガチャン！チャキ？

こうして銃を持って人格が変わった二人は化け物だらけの街に仲間を助けるため、生きて全員で脱出するため、地獄へと突入していった。

続く…

おまけ

作者「ここは作者の俺とこの小説の登場人物の会話やキャラクター
同士の会話を書いていきます。まあ早い話ただの悪ふざけに近いで
す。」

の「おい作者。」

作者「おお、のび太、きたか。」

の「俺の人格がおかしくなってるんだが。」

ド「俺もだ」

作者「あゝそれはな半分思い付きでそうしたんだ。まあ下書きの段
階でだが。なんせこの状況下だしな、人格の一つや二ついかれても
おかしくねえだろ。」

の「まあ…否定はしないが…」

作者「じゃあいいだろ。おっと時間だ。それでは皆さんまた次回で
さようなら」

Chapter 1 Part 1 (後書き)

半分パソコン半分ケータイだから指がつかれる…
明日出来そうだったら次を投稿します。

c a p t e r 1 - 1 P a r t 2 (前書き)

前回のあらすじ…ママを殺って静香の家に行ったとさ。

Chapter 1 - 1 Part 2

ド「で？隣の家の屋根までどういく？」
の「……………」

ド「かんがえてなかったのかYO!!!」
の「スマン……………」

ド「……………」

馬鹿めっ！

ド「黙れナレーター兼作者」
すいません。

その頃、静香の家では…………。

し「ただいま…………。あら？メモが…………どれどれ…………（はやクニゲて）…………？」

「ああああ…………。以下似たような状況なので省略

し「はあ、はあ、はあ…………何なの…………まったく…………ア。

ゾ。で買った戦闘用コンバットナイフがあったからよかったけど…………」

んなもん。マ○ンで売ってんのかよ・・・っかなんでそんなもん
持ち歩いてんだよ...

し「うつさいわね、売ってなかったら買ってないわよ!」
じゃあなんで持ち歩いてんだよ

し「先月に痴漢におそれそうになったのよ!そのときはその痴
漢をカッターナイフでズタズタにしてやったけど。」

あつそ。

ガチャ!!

し「ちっ!!またか!?!」

の「おい!大丈夫か!?!いきてるか!?!」

し「あら、二人とも、もうかたずいたわよ。」

の、ド「え・・・?」

し「そんな事よりも後ろ「バーン」あらら、なかなかの早打ちね...
いいセンスだ...」

どこの山猫部隊の隊長だよ...

ド「なんかえらい血まみれだけど大丈夫かい?」

し「ああ、これ?全部返り血だから、ママを殺ったときのね。(笑)

」

の「いや、(笑)とかつけてる場合じゃないだろ。」

し「いいのよ別に。どうせ3〜4年ぐらい出て来てないし。」

現実のアニメの話すんなや

し「作者兼ナレーターは黙ってる。」

すいません

し「さて、私は風呂にでもはいるか。」

ド「いや、この状況下で風呂はいるか?普通。せめてシャワーだろ
う。」

し「まあ...それもそうね、すぐにするから待ってて。」

の「へいへい...わかりましたよ...」

で2分後

し「お待たせ。」

の、ド「速っ？」

ド「まだカップヌードルできてねえぜ？」

の「俺もどん兵衛（蕎麦）まだ出来てねえぜ？」

し「何勝手に人ん家の物食ってんだよ？」

の「まあまあ…ってかなんだよその服、モロ戦闘服じゃねえか。コスプレの店で買ったのか？」

し「そんな金はないわよ。だから自作よ！自作？」

の「ふーん…まあいい、とりあえず、ベレッタM92Fを渡しておく。使い方はわかる…訳ないか、銃を撃つときはまず安全装置を外して…以下略…」

銃の説明をしているがめんどいしそこまで詳しく知らないので省略。

の「でこの銃、ベレッタM92Fは弾詰まりが起こらないからまあ大丈夫だろう。わかったか？」

し「ええ、完璧よ。」

ド「よし、ならば次はジャイアンの下へ急ぐぜ！」

の「さあ逝くぜ？」

し「字が違っわよ。」

の「訂正、行くぜ？」

続く……

おまけ…

し「おいコラ！何勝手に人ん家の物食ってんだよてめえら！」

の「仕方ないだろ？作者に言われたんだから。」

ド「そうそう！」

作者「俺はそんな事言つとらんぞ。俺が言ったのは「何か使えそうなものを探せ」だが？何もカップめんを食えとは一言も言つてない。」

の「うおっ？作者？いきなり出てくるんじゃないやねえよ？」

し「それより本当か？今の話は？」

作者「ああ。」

し「ほお…いい度胸してるじゃないか…二人共…覚悟はいいかしら…？」（笑顔で）

の、ド「あわわわわ…」

し「オリヤア？」

ドカツ？バキッ？ボコッ？

二人「ギヤアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア？」

作者「自業自得だ…おつと時間だ…それでは皆さんまた次回でお会いしましょう。さようなら」

し「もういつちよオオ？」

ドカツ？バキッ？ボコッ？

二人「ギヤアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア？」

c a p t e r 1 - 1 P a r t 2 (後書き)

やっぱりケータイだと指が痛え…

chapter 1 part 3 (前書き)

この小説に出てくる銃は設定が変わったり性能が間違っているかもしれないが、それはスルーしてください…2015年なので…
まあホントは銃をそこまで詳しくは知らないからなんですけどね…

chapter 1 part 3

前回のあらすじ

静香を連れてジャイアンの家に向かったとさ

ジ「ただいま〜！……アレ？…誰もいないのか…？おっと…メモがある…どれどれ…」

（少し遠くまで配達に行つてきます。夜までには戻ります。ジャイコは友達と一週間旅行に生きました。）

ジャ「なんだ、居ないのか。」ガタガタガタ？ウギヤアアアアアアアアア？

ジャ「あ？なんだ？」ジャイアンは近くにあつた金属バットを手にとり、表の扉を開けると…

アアアアアアアアアアアアアアアアアア？

ギヤアアアアアアアアアアアアアア？

あああああ〜

うあああ〜

キヤアアアアア？

まさに地獄。

ガシャン？

ジ「な…何なんだ…人が人を食べてる…」ジャイアンは二階から様

子を見る事にした。

ジャ「ま…街が…いずれここも危ないな…何か武器は…ん？」
そこは……………

ジャイアンの父親の部屋だった

ジャ「ここは…普段開かない父ちゃんの部屋…？」

ジャイアン恐る恐る部屋に入った。

ジャ「な…何だコレは…どう見ても…本物の銃…だな…」

ちなみにそこにあつた装備は

ベレッタM93R（改造パーツ付）

レミントンM870

レミントンM1100ショットモデル＋改造パーツ

スコープオン

MGL 140

PSG 1

榴弾×3

閃光手榴弾×3

サバイバルナイフ

戦闘用ベスト（バイオ5でクリスが装備してるアレを想像してください。）

弾…多数

ジャ「…ん？手紙…か？どれどれ…」

手紙

（私の息子へ

この部屋が開いた時街はまさに地獄と化しているだろう。そしてこの部屋が開いた理由はこの街でバイオハザード、日本語で言うならば生物災害が起こったときだ。もう見たかもしれないが人が人を食べているハズだ。原因はアンブレラ社、知っているかもしれないが海外の（特にアメリカ）大手製薬会社の開発したウイルス兵器、T・ウィルスが影響している。詳しくは引き出しの中の資料を参照してくれ、奴らとの戦い方も書いているはずだ。そして私の仕事はアンブレラ社私設軍、U・B・C・S・部隊、その中でも最強を集めた特殊部隊の第一部隊隊長だった…（ちなみに特殊部隊は第3部隊まである。）そして今はアンブレラを潰すべくアメリカで戦っている。本来ならば私が日本まで行きたいのだが残念ながらおそらく無理だろう。こんな事を息子のお前に頼むのは酷だが…私達の代わりに日本でアンブレラ社と戦ってくれ？もし可能ならばこちらからも味方を向かわせる。頼む。

2001年7月22日

まさよし

剛田正義

追伸

武器は全部持って行け。）

ジャ「…フツ…任せてくれ…日本のアンブレラ社は俺達が潰す？」

そしてアメリカに行つて父ちゃんを助けに行くぜ？ よーし！ 武器を装備だ？ …… ってこのベスト入んねえ… 仕方ないリュックでも捜してくるか…」

バアン？ バアン？ バアン？

ジャ「なんだ？ 銃声か？」

ガラツ？

の「ジャイアン？ 無事か？」

ジャ「まあな…」

の「…どうした…その銃は？」

ジャ「ああこれはな…」

ジャイアンは自分の父親のこと、この事態がアンブレラ社が原因であることなどを話した。

の、ド「なるほど」

の「よし、何か使える物を探そう。」

ジャ「ならウチの店の物を持って行こうぜ。 雑貨なら色々ある。 それとこの戦闘用ベストだがお前にサイズがあいそうだから着ていつてくれ。 それとこれだけの銃は多すぎるからみんなで分けたいのだが…」

の「なら俺はPSG-1を貰うでしょう…ん？ 随分軽量化されてるな、2キロは軽くなってるぞ…」

し「なら私はこの…マシンガン…かな？」

の「いや、静香にはスコープピオンは反動がきつい、だからこのベレッタM93R改（わかりやすく言うとバイオ2のカスタムハンドガン）のほうがいいだろう。」

ド「じゃあ俺はレミントンM1100+改造パーツ付を貰うでしょう。」

ジャ「あ？ 俺のハンドガンがねえぜ？」

の「ならばこのデザートイーグルをやるよ。 マグナムだから威力と反動がえげつないがお前なら大丈夫だろう。」

ジャ「よし。 有りがたく貰うでしょう。 お？ リヤカーがあるからこ

れに荷物を載せていこうぜ。」

ド「よし使えそうなものを全部持って行くぜ？」
の「次はスネ夫の家だ？行くぜ？」

続く…

おまけ

ジャ「おい、俺の父親の設定はどうやって決めたんだ？」

作者「ああ、それはな、まず誰の父親を出すか決める時にな、ジャ
イアンの父親がアニメでかつて一度しか出た事がないと聞いてな、
何故出てこなかったのかと考えて、今の設定へたどり着いたんだ。」

ジャ「へえ〜ならば名前はどやって決めたんだ？」

作者「強い正義感の持ち主にしたかったんだ。だから剛田正義とい
う名前になった。」

ジャ「なるほど、そう言う製作裏話があったんだな。」

作者「そうだな。おつと時間だ。それでは皆さんまた次回でお会い
しましょう。さようなら。」

ジャ「さようなら」

chapter 1 part 3 (後書き)

実はこの小説を書きながら下書きを修正して書いて投稿しているんです…

c a p t e r 1 1 P a r t 4 (前書き)

遅くなつてスイマせん

Chapter 11 Part 4

ス「ただいま…ママ？いつもなら出迎えてくれるのに…あれ…メモ書き？」

（ママはちよつと出かけて来まつ。あと今日はスネ吉君がきまつ。）

ス「なんだ、スネ吉兄さん来るんだ…」

ピンポン

ス「あ、きたきた、はいよ…」ガチャ…ドーン？

ドアが物凄い勢いで開いた

ス「あぐぼあ？」

バコツ？

ス「ぐへっ？」

スネ夫はドアに吹き飛ばされ、壁に叩きつけられる

スネ吉「スネ夫オオ？すぐに家中の戸締まりをするんだああ？」

ス「……………」

返事がない…ただのしかば「いや、まだ生きてるから！勝手に殺さないでくれ？」

訂正、スネ夫は死にぞこなつた。

ス「いや、死にぞこなつたってなんだよ？僕なんか変なことした！？なんか恨まれるようなことした！？」

冗談だ。

スネ吉「そんなことより戸締まりをするんだああああ？」

ス「もうすでに終わってるぜええええ？スネ吉兄さああああん？」

スネ吉「そいつあVERY GOODだZE？」

ス「て、てゆーか？そ、そそそそそ、そんなに慌ててどどどどど

どど、どうしたんだいスネ吉brother!」

スネ吉「スネ夫、落ち着KE!落ち着くんDA?」

お前も落ち着けや…バカたれが…

ス「ハア…ハア…そうだな…」

スネ吉「ゼエ…ゼエ…そ、そうだな…とりあえず…」

二人「落ち着こう」

ス「で?そんなに慌ててどうしたんだいスネ吉brother。」

スネ吉「お前アレを見なかったのか?あとbrotherはやめろ。」と外を窓から見て指差すそこには

ゾンビが数体だかいた

ス「……………オエエエエエエ…」

スネ夫はグロさとキモさとその他モロモロでゲ○を吐いた、勿論テ
ーブルに置いていたビニール袋に…

スネ吉「大丈夫か?って○口吐いてるから大丈夫ではないか…」

ス「OK…大丈夫。治った…多分…」

スネ吉「そ、そうか…無理はするなよ…」

ス「ところでアレは何だ?あんなのはのび太の家から帰る時にはい
なかったのに…」

スネ吉「…?へんだな…お前、いつ帰ってきた?」

ス「え」と…大体5分位前かな。あ、でも変な匂いはしたような…」

スネ吉「俺は20分前にはこの街にはいたが奴らがウヨウヨいた…
なぜお前は出会わなかったんだ…?」

ス「さあ…運が良かったんじゃない?」

スネ吉「…まあいい、兎に角この家ならば暫く安全だろう。武器や
ら食糧やらが沢山あるからな…」

ス「いや…武器って…実銃でもあるの?」

スネ吉「ああ、M4カービンが10挺と改造パーツ、弾はマガジン
200個分(マガジン一つにつき40発入り)それとベレッタM9

2Fが10挺、マガジン弾入りが250個分（マガジン一つにつき10発）サバイバルナイフ多数、グレネードが30個がある。」

ス「ちょ…そんな物どっから手にいれたんだよ…」

スネ吉「ア○ゾ○と楽○で買ったのさ！！いやゝ意外と安かったよ！」

ス「まさかのネット！？意外とバレないもんだな…」

スネ吉「まあね。もし感づいたヤツがいたら消すけどね（笑）」

ス「で？結局あのゾンビもどきは何なんだ？」

スネ吉「あゝ…あれはだな、アンブレラの作ったウィルスの影響でああなったんだ。確か…t v i r u sとか言うやつだな」

ス「アンブレラ…あの海外の製薬会社かい！？」

ス「そ、日本語で言うなら株式会社傘だな。」

ス「いや、日本語で言うひつようなくね？てか何だよ…なんたらって？」

スネ吉「……………全てを話すべきだな…。」そう言つてスネ吉は真剣な顔になった。

続く…

ス「ええっ！ここで切るの！？」

オマケ

ス「中途半端なとこで切るなよ！」

作者「仕方ないだろ！親父が俺の約80枚の下書きをファイルごとどっかやったんから急遽制作し直したんだ？」

ス「なんつー親父だ？ボコボコにしてやりたいぜ？」

作者「やめとけ、お前では勝てない。警察官だし。まあ俺のナイフ装備×4と俺の右腕が正常ならば勝てるけどな！」

ス「そう言えばお前のあだ名は切り裂きジャックだってな！↑（マジ）」

作者「そうだ？詳しくは活動報告をみてください？そして俺の右腕

の防御力は椅子が飛んできても弾き飛ばし不良どもの本気の蹴りを防いで反撃可能な防御力だ？実際に色々防いだし？」

ス「具体的には？」

作者「椅子、パイプ椅子、国語辞典、不良どもの本気の蹴り、我が同志（親友）の必殺パンチ（これはヤバかった。ちなみに修行のときに防いだ）、飛んできたチャリ（マジ実際に飛んできた、無論不良どもの仕業）、だな。」

ス「チャリて…」

作者「あれは焦ったぜ…下手すれば骨折だったな…おっと時間だ、では皆さんまだじかいで」

ス「さよなら」

c a p t e r 1 1 P a r t 4 (後書き)

また次も遅くなります…ごめんなさい…

c a p t e r 1 1 p a r t 5 (前書き)

また遅くなりましたが次はもっと遅くなる可能性大です

chapter 1 part 5

前回のあらすじ……スネ夫とスネ吉の会話だったとさ

スネ吉「…俺はアンブレラに対抗している組織の一員だ…まあ組織と言っても小さいがな。メンバーはせいぜい50人位しかないんだ。」

ス「…ほえ？」

スネ夫は話についていけないようだ

スネ吉「俺の任務は君達を含むできる限りの生存者をこの街から脱出させること、それと何か使えそうな物を掻っ払ってく事だ。」

ス「…脱出させてくれるのは有り難いけどさ…どうやって脱出するのか？何かデケエ壁がいつの間にか街の周りに出来てるし…」

スネ吉「………」↑考えて無かった

ス「おい…テメエ…何も考えて無かったのかよ!!」

スネ吉「いや…壁は作ると思ってたけどまさか此処まででかい壁とは…」

ちなみに壁の高さは100mくらい、厚さ20mである。

ス「まあ…あの壁はあまりにもでかすぎるけど…」

スネ吉「まあ、みんなを救出してから考えるところ。そして…これだ。」

スネ吉は持っていたバッグからいくつかファイルを取り出した。

ス「これは…何のファイルなんだい？」

スネ吉「全て…ウィルス関連のファイルのコピーだ。」

ス「何故コピー？」

スネ吉「オリジナルはアメリカのニューヨークの本拠地にあるからだ。全部アンブレラから掻っ払って来たものさ。」

そう言っつてスネ吉はTOP SECRET と書かれたファイルを

開いてスネ夫に手渡した。
スネ吉「ソイツを読んで見る。」
ス「どれどれ…」

ファイル

T'virusについて

このウイルスは始祖ウイルスを改良して作られた物である。

効力

体の細胞を活性化させ、「歩けない人の足を歩けるようにする」事も可能

また、生物の遺伝子を組み替え、さらに多種の生物同士の遺伝子を交差させ、新たな生物を作る事も可能。

しかし欠点が多い。欠点は

- 1・ウイルス自体の毒性が非常に強い
- 2・通常の人間には数日しか耐えられず死に至る。
- 3・ウイルスに感染したまま死亡するとウイルスの効力で細胞が活性化、死者は蘇り生ける屍、ゾンビとなり果てる。

感染者について

死亡した感染者は行動に異常なまでの新陳代謝が必要であり常に何か他の生物を食べようとする。さらに彼らの脳はウイルスの影響により8割は破壊されておりドアの開閉すら理解できないようになってしまう。

抗体について

一部の人間には、ウイルスに空気感染しないようである。それらの人間の体を調べた所、抗体が発見された。調査した所、100人中10人つまり1/10が抗体を持っていた。何故、いつ、抗体を作ったのかわからない。しかしその血液を採取し、抗体を培養する事で抗ウイルス剤を作る事に成功した。しかしこの抗ウイルス剤はゾンビになる前に打たないと意味が無いと言う欠点、そして数が少ないのが欠点である。

例外の存在

超超低確率だが、ウイルスを自らの体に取り込み超人的な力を手に入れる存在が居る。アンブレラが確認しているだけで2人、実験体を含めると三人確認している。

No.1 リサ・トレヴァー

No.2 A・ウエスカー

No.3 Nobita

ス「……なん……だ……のび太が……超人的な力を持っていた……だ……」
スネ吉「まあ焦って当然だな……このファイルを見るんだ。」

続く……

…オマケ…

ス「……………」↑驚きすぎて放心状態

作者「おゝい、スネ夫ゝおきろゝ」バシッ、ドカツ、ボコッ

ス「はっ！！僕は一体なにをつ！！」

作者「気にするな。バナナの皮で足を滑らせて頭を打ちつけて気絶してただけだ。」

ス「そうなのか。」

作者「そうだ。（馬鹿め…）」

ス「そんなしょーもない物に引つかかると思っていたのか！！」

作者「なん…だと…なぜブロリー…」

ス「下らん作者は流派東方不敗で叩き潰してくれる！！食らえ！石破天驚拳！！」

作者「おっと危ない。食らえ飛天御剣流、龍巻閃・旋！」

ス「ぐはっ！！」

作者「スネ夫がまた気絶したので今回はこの辺で。さようならゝ」

chapter 1.1 part 5 (後書き)

スネ夫の声優さんはGガンダムの主人公ドモンです…さらに言うならついこのまえ知ったことですが、静香のママの声優さんは新起動戦記ガンダムWのカトル様…思わずさげびました…

Chapter 1—1 part 6 (前書き)

すみませんでしたアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア!

Chapter 1 | 1 part 6

ファイル【人型汎用B・O・W計画】

：B・O・Wに決定的に欠けている部分、知能を人間並に強化するにはどうすればよいか

というわけでなぜか人間のB・O・Wを作ってしまったという結果になった

まず

ヒトの遺伝子を操作する事でT・ウィルスに適合する人間を作り出すこれは不可能ではないにせよコストが非常に高い。

さらに完全に適合出来る人間は未だに作り出せてはいないしかし最も安全である

次に受精卵の状態でT・ウィルスに感染させる方法である

不可能ではないがこれは母体が非常に危険であり、胎児から感染する可能性が高い

抗体を使用するにも、それでは胎児が死亡する可能性が非常に高いしかし最も確実な方法である

そして最後は肉体を半機械化する事でT・ウィルスに耐えるようにする事である

これは

「そんな事するなら完全ロボットに改造してマシンガンZにしてしまった方がいいだろッ!!」

「いや、ここはゲッターロボだ!」

「さて!やはりここはガンダムにするべきだ!!」

「いいや!いつそエヴァみたいにした方が良い!!」

「バカがッ！！ここはアクエリオンだろッ！！創世合体だろッ！！」
「何言ってやがるッ！！グレンラガンだろッ！！天元突破だろッ！！！！！！」

と、話が全く関係無い方向に行ってしまったので15分でボツになった

ちなみに私（このファイルの作者）はマジンカイザーにするべきだ
と思う

カッコイいし強いしッ！！

結果

1つ目と2つ目を両方実行する事になった

しかし一つ目のサンプルは完成した後、脱走したらしい
追跡隊を組織したが、全て全滅させられ、武装を奪われたらしい。

名称

無し

正式個体名称【スラッシャー・タイプゼロ】

しかし二つ目は成功

名称

N o b i , N o b i t a

B ・ O ・ W 正式個体名称【バーサーカー・タイプゼロ】

以上、報告

N
N
・

ス「…なんてこった…」

スネ吉「…一応彼には説明するべきだろうか…?」

ス「…その方が良さそうね…」

一方…肝心のび太達は…？

の「くそっ！！追いつかれる！！」

G「うおりゃああああ！！！！」

D「おーおー…頑張ってるなあ…」

静「くそったれえええ！！」

D「お前もかよ…」

何やってるかって？

のび太とジャイアンは頭文字D　A A
でレース中

静香はゾンビが迫ってくる銃を使ったシューティングゲームで射撃
訓練をしていた

ドラえもんは落ち着いた様子で観察しながらアーケード版テトリス
をしていた

要するに全員ゲーセンにいた

の「ハチロクウー！頼む！曲がりきつてくれエエエエエー！！」

G「ハッ！！インプのスピードと俺様のドラテクには貴様では勝て
ぬよー！！」

何をのんきにやってんだか…

その時！！

バリイイン！！

アアアアアゝ

アウウウウウゝ

ウアアアアゝ

ヴヴウウウゝ

の「よっしゃあああああああああああああ！！勝ったアアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！」

G「くそっ…まさか最後のカーブでミスるとは…」

静「…ふう…記録更新だ…」

ド「いや！何でお前らそんなに落ち着いてんだ！？ゾンビが大量に
来てるぞ！？」

の「なにiiiiiiiiい！？」

ド「気付いて無かったんかいッ！！！！！」

の「とにかくゲーム機を倒して足止めだアアアアアアアアアア
アアアアアアア！！！！！」

バゴン！！バゴン！！

G「バリケート完成ッ!!」

の「よし!!全員銃を構えろオオオ!!……撃てえエエエエエ
エエエ!!」

のび太はMk・23

ドラえもんはM1100

静香はベレッタM93R改

ジャイアンはデザートイーグル
をそれぞれぶっ放した

「「「Fire!!!!」」」

次回へ続くッ!!

おまけ

の「全く…約半年も放置されるとは思わなかったぜ…」

作者「すまん、だがまた再開するぜ!!」

ド「これで俺達はまた弾けられるな!!」

の「ああ!作者も銃ね知識も増えたしな!」

作者「じゃあまた派手に暴れてくれよ!!」

「「ああ!!Let's rock!!」(派手に行くぜ!!)」

では!またこれから再開しますのでよろしくお願いします!!

Chapter 1—1 part 6 (後書き)

あとがきには全員の武器を書いていきます

のび太

Mk.23

S.A.A.

PSG-1

日本刀 二振り

ドラえもん

ワルサーP38

レミントンM1100

スコピオン

静香

ベレッタM92F

ベレッタM93R

コンバットナイフ

ジャイアン

デザートイーグル

ベレッタM92F

金属バット

スネ夫、スネ吉

未定

余り

ベレッタM92F×12挺

M4カービン×10挺

Chapter 1 - 1 part 7 (前書き)

HaHaHa!! 今回もLet's rock!! (派手に行くぜ
!!)
)

ドゴオオオオン!!!

「「「ギヤアアアアアアアアアア!!!!!!!!!!!!!!」」」

ド「誰だあ!?!いきなりロケットランチャーぶっ放した野郎はアアアアアアアアアア!!!!!!!!!!」

??「俺だ!!」

の「誰だツ!!」

??「俺だよ!!」

ド「お…お前は…」

の「溺杉!!あ、もとい、出木杉!!!!」

出木杉(以下出)「間違えんな!!のび太!!」

の「すまん。」

ド「で……何やってんだ？こんな街で？」
地獄

出「んー…まあ…ゾンビ殲滅しながらハイエース（でかい車）でドライブ？」

G「お前……車運転出来たのか……」

出「フツ… あんまり俺を甘く見るなよ… ただ賢いだけじゃねえぜ？」

静「流石だな！！良いセンスだ！！」

「だからこの山猫部隊の隊長だよ。」

出「H A H A H A H A H A H A！まあ車に乗れよ！！武器も大量に積んであるしな！！」

の「ほう、見せてもらうか……」

ガチャ
...

の「……おお……かなりあるな……」

出「だろ？」

そこには

ハンドガン

ベレッタM92F

コルトM1911ガバメント

サブマシンガン

H&K MP5

M11

アサルトライフル

AK74

M16

マグナム

コルトパイソン

スナイパーライフル

PSG - 1

ドラグノフ

その他

グレネード×30

スタングレネード×25

白燐グレネード×15

RPG7

の「…なかなかそろってるじゃねえか」

G「なあ…この馬鹿でかいライフルは何だ？」

出「ああ、それか？レールガンだよ。」

ド「まさか弾はゲーセンのメダルじゃ…」

出「んなわけねえだろ。まあメダルも撃てるようにはなってるがな、ネタで。」

静「御坂wwwwww」

の「何でこんなもん持ってた？」

出「ああ、作ってたんだよ。」

の「なん…だと…！？」

出「ほら、中学の夏休みの課題にさあ、なんかとりあえずすげえもん作ってこいッ！！みたいなのがあつたろ？だからレールガンを作った。」

G「いくらなんでも凄過ぎんだろッ！！」

静「て言うかこの大量の銃はどうしたんだよ。」

出「ああ、沖縄の米軍基地とか自衛隊基地とかからパクってきた。
ずいぶんずさんな警備だったからな、潜入は楽だったぜ。なんせT
-シャツにジーパンで武器パクってきたからな。」

ド「服装ラフすぎんだろwwwってかどんだけいい加減なんだよw
www」

の「まあいいからとにかく行くうぜ。とりあえず当初の目的通り、
スネ夫の家に向かうぜ。」

のび太はそのまま助手席に座った。

出「あいよ、飛ばすぜ!!」

ブオオオオオオン!!

出「ヒヤッハアアアアアアアア!!!!」

続くッ！！

おまけ

作：えーと…一つ…問題が…

の「なんだ？」

作：このおまけコーナーの名前を考えようとしたんだが…思いつかねえんだ…

の「んなもん適当に”グダグダ会話コーナー！”とか言つときゃいいだろ。」

作：まあしばらくはおまけでいいや

の「いいのかよ。」

作：いいんだよ。まあ思いついたら書きゃあいいしな。

の「そうか。」

終わり

C a p t e r 1 - 1 p a r t 7 (後書き)

武器

のび太達↓変更なし

出木杉

コルトM1911ガバメント

ベレッタM92F

H&KMP5

M16

ドラグノフ

RPG-7

自作レールガン

余り

ベレッタM92F×12

M4カービン×10

M11

AK74

PSG-1

グレネード×30

スタングレネード×25

白燐グレネード×15

以上

Chapter 1 - 1 part 8 (前書き)

今回はPC投稿

Chapter 1 - 1 part 8

- - - 車内 - - -

の「出木杉イイ!! 速度落とせエエエ!! この入り組んだ住宅街で時速150kmは出し過ぎだアアアアアアアアアアアアアアアアアア!!」

出「Hey Hey Hey Hey!! こんなもんまだまだ序の口だぜ!?!」

の「ったく...」

ド「うおっ!?! グレネード飛んできたぞ!!」

出「悪い!! ダンボールに入れといてくれ!!」

静香「ウオエエエエエエエエ.....」

G「ZZZZZZ.....」

出「Hoo!!ゾンビ軍団のお出ました!!」

の「んなもんひき殺せ!!」

ギャギャギャギャギャギャギャギャギャギャギャギャ!!

の「おい!何で止めるんだよ!!」

出「あんな大量のゾンビ軍団ひき殺したら車がぶっ壊れちまう!!」

の「チッ...しゃあねえなあ...おいドラえもん!ゾンビ殲滅に逝くぞ!!」

ド「あいよ...ってか逝くって字が違うぞ...」

の「...気にすんな!!さあてエ!殲滅だっ!!ヒヤッハアアアアアアアアアアアア!!」

シャキン!

刀を両腰から抜き放ち、2体のゾンビの首を切り落とす。

そのまま振り切った状態から手首を動かし、刃を向け、

の「タアッ!!」

ズシャッ!!

正面を切り裂く

そのまま左手の刀を逆手に持ち替え

の「Die!!」

左手の刀で背後のゾンビの頭を貫きつつ、右手の刀で右側のゾンビの首を切り落とす

ド「おうおう…ずいぶん派手だなっ!!」
Bang!!

のび太を観察しながらワルサーでゾンビを確実にしとめていく

その命中率、82.4%
なかなかのものである

の「ハッ!」

2体のゾンビの首を切り落としたのび太

の「ハッハー!」コレでも食らいな!」

グレネードを一つ投げ

の「checkmate」

Bang!」

投げたグレネードをM16で正確に撃ち、空中炸裂させ、残ったゾンビの頭を吹き飛ばす。

ド「流石だ。最近……中学生になってかなり運動能力が上がったから「俺はスタイリッシュに生きる!」とか言ってたが、まさかこの命がけの状況でもスタイリッシュを貫くなんてな。」

の「まあな。」

Ga!!

2人の気づかない間に、のび太の背後にゾンビ犬が襲いかかって来ていた

の「っ!!しまっ……」

Dang!!!!

G「油断大敵だぜ……You see?」

犬の牙がのび太を襲う直前にジャイアンがデザートイーグルで犬の頭を撃ち抜いていた。

の「お前寝てたんじゃなかったのかよ。」

G「オイオイ、せっかく助けてやったのに、いきなりそれか？」

の「フツ…冗談だ。助かったぜG。」

G「You・re welcome・」どういたしまして。」

ド「さて、そろそろ行くぞ。」

出「乗れ、急ぐぞ。」

次回へ続くっ！

MAKE

の「作者あああああああ……くたばるう ええええええ
ええ……………」

シャキン！！

作 : F u c k
y o u ! !
W H Y ! ?

の「何なんだよ!! O M A K E っ て!! O H A N A S I
みたいじゃねえか!!」

作：うるせえええええええええええええええ！！！！

の「Die!!!!!!」

作：You can't kill me!! Rising
Dragon!!

の「ア————ツ!!!」

作：それは色々マズイぞ…別の意味でとらえる人がいるかもしれん
からな…

終われ

Chapter 1 - 1 part 8 (後書き)

装備

全員変わらず

所変わってスネ夫宅

ス「で？あの化けモンは、まだまだ増えんの？」

スネ吉「さあな。まあゾンビは増えないだろうけどな。その他生物兵器はアンブレラが投入して来れば増えてくるだろうしな。」

ス「だりいな…とりあえずこれからどうする…？」

スネ吉「とにかく、脱出路を搜索しながら生存者を探す。」

ス「オーケイ、ならさっそく…」

ドンドンドン!!

家の扉を激しく叩く音がした

???「スネ夫!! 助けてくれ!! 安雄だ!! 助けてくれ!!」

ス「!! 待ってろ!! 今行く!!」

スネ吉「受け取れ!! ベレッタとM4だ!!」

ス「ドアから離れる!! Ha!!」

バゴーン!!!!

ス「死ねやゾンビ共……… ってなんじゃこりやあああああああ
ああああ!!!!」 何故か家の前がゾンビだらけ

ス「多過ぎんだろゴラアアアアアアアアアアアアア!!
!!」

とか言いつつM4を撃ちまくるスネ夫

安雄「スネ夫!! 後は任せた!!」

安雄「俺、此処に避難に来たんだぞ！！なあーに誰でも出入り自由にしてくれとんじゃああああ！！！」

ス「じゃあ鍵かけんなよ！！」

安雄「てめえは罔なんだよこのマザコン狐！！」

ス「うつせえ！！確かに昔はマザコンだったけど今はちげえよ！！」

安雄「今もだろ！！」

ス「違うわ！！今となつては親なんざ金づるなんだよ！！しかもなんだよザマスって！！キモ過ぎんだろ！！あんなヤツにべつたりだった過去をやり直したいくらいだ！！そして自慢ばかりしてた自分を過去の自分をぶっ殺したいわ！！」

安雄「確かにあのザマスはキモかった！！しかも地味にウゼエ！！後自慢ばかりしてたのはウザかったが気が付いたからまだマシだ！！」

ス「だいたいなんだよこのツボ！！100万とか言っただけどう見ても500円くらいだろ！！」

安雄「いやいや！！こんなもん150円ぐらいだろ！！ジュースと同じくらいだ！！」

ス「ってかなんか話が無茶苦茶になってきたな!!」

安雄「話をそらしすぎた！」

ス「もう訳わかんねえ！！！」

安雄「とりあえずドアふさげ！！何か無いのか！！」

ス「アホほどある訳分からん絵を置いたら塞げるぞ!!」

安雄「それだ！！」

スネ吉「そんな事しなくても…ポチツとな♪」

ကကကကကကကကကကကကကကကကကကကကကကကကကကက...

ス「なん……だと……」

スネ吉「厚さ約3cmの鋼鉄製の扉に、鋼鉄製の高さ3m、厚さ約

5cmの塀に有刺鉄線、機銃5挺、迫撃砲2台、設置型火炎放射器2台、まあこんだけありやアしばらく持つさ。」

ス「もはやちよつとした要塞じゃねえか！！何時の間に改造されてんだよ！！」

スネ吉「あれは…いまから36万年前だつて「エルシャダイやつてんじゃねえよ！！」スマン、去年だ…」

ス「何なんだよホント…」

スネ夫は頭を抱えて呟いた

[illegible]

出「よつしやあああああああああああああああああああああ
あ！！！！１７０突破あああああああああああああああああ
ああああああああああ！！！！もうすぐ着くぞおおおお
おおおおおおおお！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

「『ギヤあああああああああああああああああああ
 ああああああああああああああああああああああああ
 ああああああああああああああああああああああああ
 ああああああ！！！！！！！！！！！』」

ホント大丈夫なんだろうか

C a p t e r 1 - 1 p a r t 1 0

の「なあ、あそこに人いないか？」

ド「ああ？ゾンビだろ。」

の「いや、走ってるぞ。」

ド「ゾンビも走るだろ、多分。」

出「だが走ってるゾンビなんざ見たことはないぞ。生存者かもしれない、急ぐぞ。」

ブオオオオオオオオオオオン！！！！

2人の少女がゾンビから走って逃げている

????1「ハア…ハア…ハア…ハア…もう…駄目…走れない…」

直ぐ後ろに数体のゾンビが迫っているが疲れて動けない

「????2「もう…おしまい…なの?」

「ウアアアア」…

B a n g ! B a n g ! B a n g ! B a n g !
シャキン!ザシュツ!シャキン!ザシュツ!

「Are you ok?」

?1「はい」

?2「あ…ありがとうございます…」

のび太「…で…アンタは誰だ……」

隣に立つ、少女達をたすけた異様な風貌の男に聞くのび太

「俺か?名前はない。どうしても呼びたければ…J a c k t h e
ジャックザリップパー
r i p p e r とでも呼んでくれればいい。」

の「…切り裂きジャックか…その随分でかい鎌が由来か?」
ジャック・ザ・リップパー

ジャック「さあな、いつの間にかそう呼ばれていた。」

自身の身長を超える巨大な大鎌を肩に担いで、男はそう言った。

の「おっと…その二人とも、名前を聞かせてくれるとありがたい。」

「あ、はい、私は緑川聖奈といいます…」

の「ああ、あの美人で賢いと有名な生徒会長さんか。」

聖奈「び、美人だなんて…」

の「で…貴方は…」

「私は、桜井咲夜、よろしくね。」

の「…ああ、少し前に近くに引っ越してきた…」

咲「ええ、そうよ…」

ジャック（以下J）「こんなところでベラベラ喋ってたら、またゾンビが集まってきかねん、どこか…少しは安全な場所はないか？」

の「…一応…これから俺たちが向かうとしてる友達の家なら、あの程度安全かと。」

J「ならばそこへ向かう、道案内を頼む。君らは車だろう？俺はバイクなんぞでな…」

の「分かりました、聖奈さんと咲夜さんも来てくれますか？」

聖奈「ええ、断られてもついていきますよ…こんなところじゃ…」

咲夜「私も同じよ…」

の「では、こちらへ………」

J「その子たちを頼む。」

ドゥルン！ドゥウウウウウウン！！

バイクのエンジン音が唸る

次回へ続く！！

C a p t e r 1 - 1 P a r t 1 1

の「クソッ！クソッ！クソッ！クソッ！まさかの瓦礫かよ！」

スネ夫の家に行きたいのだが、まさかの瓦礫で進めない。

「この先か？」

出「ええ。」

「なら下がっている。C4で吹き飛ばす。」

出「って止めてください！余計に崩れますから！」

「む…なら他に何か方法はあるか？」

出「コイツを使います」

「…なんだ…その…バカでかいライフルは…？」

出「レールガンです、僕が作りました。」

」「…子供がそんな物を開発してしまうとは…この世界も恐ろしいことになったもんだ…」

出「ヒッハー!!」

ドチューン！ドチューン！ドチューン！

の「…出木杉が壊れた…」

出「これでよし」

レールガン乱射により、瓦礫は吹っ飛んだ。

何？何でレールガンで瓦礫が吹っ飛んだかって？

出「弾速を極限まで高めて、ソニックブームを発生させたのさ。」

だそうです。

の「オイ、何を一人ぶつぶつ言ってるんだ？」

出「気にすんな。」

スネ夫宅

ス「あああああ！？何でてめえら全員集合何だ！？」

の「うつせえ！此処しか思いつかなかったんだよ！」

ス「学校とかあるだろ！何で避難場所が俺の家なんだよ！」

ジャ「黙れ、全員の命がかかってるんだ、とっとと入れろ。」

ジャイアンはデザートイーグルを突きつけて脅した

ス「ハア…仕方ねえ…入れよ…」

Ｊ「…お前ら本当に友達かよ…」

咲夜「…まあ…仲が悪い訳じゃなさそうだけど…」

の「気にしないでください、いつもこんなノリなんです。」

Ｊ「…恐ろしい仲だな…」

スネ吉「…すまない…その彼…鎌を持った君…悪いが二人で話
したい…来てくれるか？」

「……」

無言でうなづく

スネ吉「……さて…話をしよう…この街で今起こっていることに関
してだ」

「…アンタは？」

スネ吉「…骨川スネ吉…君のことはしってるよ…」^{ノーネーム} 名無し「いや、
いまは切り裂きジャック」^{ジャック・ザ・リップ} か…」

「…何故俺の事を知っている…？」

スネ吉「…5年前…シベリア…一汎用人型有機生物兵器計画《マル
チパーパス・ヒューマン・バイオ・オーガニック・ウェポン・プロ
ジェクト》…通称、M・H・B・O・W・Project…チーム

ブレイカーズ…これだけ言えば解るかな…？」

Ｊ「…なるほど…な…あの部隊の…か…」

スネ吉「…すまない…また君に頼ることに…」

Ｊ「…気にしないでくれ…半分以上自分の為にやっていることだ…」

スネ吉「そうか…」

Ｊ「…それに…ここには”アレ”があるんだろう？」

スネ吉「まあ…一応…」

Ｊ「…だったら俺にほかの行動理由は必要ない…アレがあるならな…」

スネ吉「…だが、アレもあと一週間で消し飛ぶ…」

Ｊ「…自爆による証拠隠滅か…」

スネ吉「ああ…だから、それまでに可能な限り生存者を集め、脱出する必要がある…」

Ｊ「脱出ルートは三つ…か…」

スネ吉「…確実性を狙うなら、あそこからだか…」

」「かなり危険だろうな…」

スネ吉「空路は足が用意出来ない…」

」「つまり、陸路しか無いわけだ…」

スネ吉「問題はあの壁だ…アレをどうにかしない限り出られないだろう…」

」「とにかく、まずは生存者を集めよう…人数が集まれば、何かいい案がでるかもしれん…」

スネ吉「加えて、食品や日用品も手に入れなければ…」

」「彼らに手伝ってもらうしかあるまい…」

スネ吉「…よし、彼らには俺から話しておこう…」

ヨ
マ
ケ

の「なあ作者」

D
O
「
なんだ」

の「死ね」

D
O
「
なんで？」
」

の「更新遅い」

DO「仕方ねえじゃん、リリカルなのはがメインになっちまってんだから」

の「そうか」

DO「そうだ」

「Die!」

B a n g !

D O 「ア—ッ!」!

続く

Chapter 1 - 1 Part 11 (後書き)

武器

のび太

Mk. 23

S. A. A.

PSG - 1

日本刀×2

ドラえもん

ウルサーP38

レミントンM1100

スコピオン

静香

ベレッタM92F

ベレッタM93R

コンバットナイフ

ジャイアン

デザートイーグル

ベレッタM92F

金属バット

スネ夫

ベレッタM92F

M4

ジャック・ザ・リッパー

Mk. 23

M16

P90

M870 カスタム

PSG-1

M60

残りメンバー

未定

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1080r/>

ドラえもののび太のBIOHAZAD 1st seson

2011年11月29日14時48分発行